

二 中 通 信

校 訓

自主 協力 責任

津久見市立第二中学校
学校通信 第 26 号
令和 1 年 8 月 19 日 (月)
文責 校長 阿部 幸士

夏休みも残り6日となりました。 7月19日(1学期終業式)から今日まで、きっとあつという間に過ぎてきたと感じていることでしょう。 やるべきことに自分なりに頑張れた夏休みになっているでしょうか? この夏休み中の頑張りを土台にして、第二中学校の2学期が間もなく始まります。

《 県中学総体へ出場し健闘する姿がありました(7/24~26) 》



令和になって最初の県中学校総合体育大会が行われ、第二中学校からは、ソフトテニス、水泳、柔道、剣道、陸上競技の各選手が出場しました。全部の会場を回って応援することまではできず、一部の会場の応援になってしまい、選手の皆さんたちには申し訳なく思っています。しかし、参加した全ての選手の皆さんたちは、この大会で現在の大分県レベルを肌で感じる事ができ、多くの学びを得ることができたのではないのでしょうか。

《 ボランティア活動に積極的に取り組む姿がありました 》



伝統的に「人に優しい」中学生は、ボランティア活動にはいつも積極的です。
花火大会の翌日の「ゴミ拾い活動」にも、多くの生徒が早朝から参加をしてくれました。
8/2(金)に実施された〈高齢者福祉施設「しおさい」夏まつり〉にも、夕方から夜にかけての活動にも関わらず、多くの中学生がボランティアでお手伝いに駆けつけてくれました。この優しさは津久見の未来を支える財産です。

～ 台風で8/6の平和学習ができませんでした。広島平和記念式典での「平和への誓い」をお伝えします ～

「平和への誓い」《子ども代表 金田秋佳さん(落合小学校6年)、石橋忠大さん(矢野小学校6年)》

私たちは、広島町が大好きです。ゆったりと流れる川、美しい自然、「おかえり」と声をかけてくれる地域の人、どんなときでも前を向いて生きる人々。広島には、私たちの大切なものがあふれています。

昭和20年(1945年)8月6日。あの日から、血で染まった川、がれきの山、皮膚がはがれた人、たくさんの亡骸、見たくなくても目に飛び込んでくる、地獄のような光景が広がったのです。
大好きな町の「悲惨な過去」です。被爆者は語ります。「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。
「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のまま終わらせないために。二度と戦争をおこさない未来にするために。

国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。みんなの「大切」を守りたい。

「ありがとう」や「ごめんね」の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。

大好きな広島に学ぶ私たちは、互いに思いを伝え合い、相手の立場に立って考えます。意志をもって学び続けます。被爆者の思いに、私たちの思いを重ねて、平和への思いを世界につなげます。

広島市内の小学6年生から応募された「平和への意見文」の中から20点が選出され、「子どもピースサミット」が開催されます。そこで大賞に選ばれた2名が、子ども代表として平和記念式典の中で「平和への誓い」を発信します。
※「平和への誓い」の内容は、ピースサミットへ参加した20名全員で考えたものです。

